

CMLogger2の使い方

— SDロガー、スクリプトのエミュレータ —

2019年6月3日 株式会社データ・テクノ

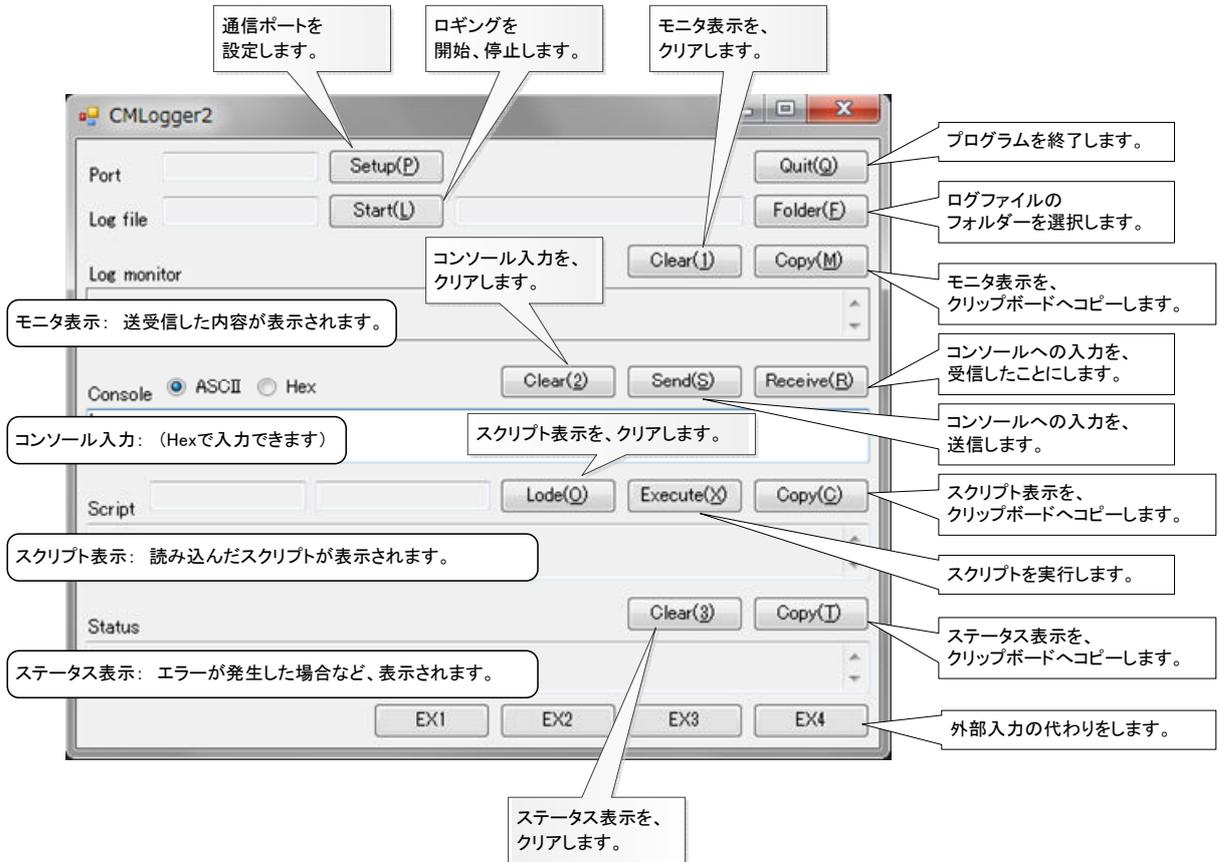
■■ 概要 ■■

CMLogger2は主に以下の機能を持つ、Windowsアプリケーションです。
シリアルポート(RS232C)から受信したデータを画面に表示したり、ファイルにセーブしたりできます。
コンソールからの入力を送信することや、擬似的に受信したことに出来ます。
専用のスクリプト言語を実行し、データの送信や、簡単な通信プロトコルを実現できます。
スクリプト言語は弊社のSDロガーに実装されており、パソコン上で動作確認したスクリプトを、そのままロガー上で実行できます。

CMLogger2は、以前のCMLoggerを継承し、SDロガー4 アドバンスド版で実装された「日付時刻待ち機能」、「ログ開始・ログ停止機能」をサポートしています。

■■ 機能 ■■

- ①シリアルポートから受信データを、ログファイルにセーブします。
 - ・受信した内容をそのままの形式でセーブします。
 - ・ログファイルは設定されているフォルダに作成されます。
 - ・ログファイルは「0000.LOG」から順に、「0001.LOG」「0002.LOG」・・・「0009.LOG」「000A.LOG」・・・「000F.LOG」「0010.LOG」・・・と探し、存在しなかったファイル名がつけられます。
 - ・「FFFF.LOG」まで探し空いているファイル名が無かった場合は、ログファイルは作成されません。
- ②送信、受信した内容をログモニタに表示します。
 - ・ログモニタは典型的な16進ダンプ形式で表示されます。
 - ・1行に16バイトずつ、最大1024行まで表示されます。最大行を超えた場合は古い行から消えていきます。
 - ・ログモニタに表示されている内容を、クリップボードにコピーできます。
- ③スクリプトを読み込み実行できます。
 - ・スクリプトの詳細は下記の資料を参考にしてください。
 - ・スクリプト言語—チュートリアル [Script-Tutorial_X507019.pdf]
 - ・スクリプト言語—リファレンス. [Script-Reference_X507018-8.pdf]
- ④コンソールに入力された文字を、擬似的に受信したことに出来ます。
- ⑤コンソールに入力された文字を、送信することが出来ます。
- ⑥スクリプト言語を読み込み、解釈された内容が、コード表示領域に表示されます。
 - ・コード表示の内容は、クリップボードにコピーできます。
- ⑦エラーなどが発生した場合は、ステータス表示領域に表示されます。
 - ・ステータス表示の内容は、クリップボードにコピーできます。



●通信ポート

起動すると、直前に設定されている状態で通信ポートがオープンされます。オープン出来なかった場合は、その旨ダイアログが表示されます。

通信ポートの設定は、「**Setup(P)**」ボタンを押して行ってください。

通信ポート設定ダイアログを「OK」で閉じる際、新しい設定で改めてオープンされます。

スクリプト言語で、CTS、RTSの機能を使う場合は、「**Flow Control**」を「**None**」に設定してください。

■■インストール■■

つぎのファイルを、適切な、ひとつの同じフォルダにコピーしてください。

「CMLogger2.exe」

「CMLogger2.exe.config」

「Script.dll」

「CMLogger2.exe」をダブルクリックなどで実行してください。

実行には、「.NET Framework 4.5」以降が必要です。

■■そのほか■■

CMLogger2の知的財産権は、(株)データ・テクノが保有しております。

CMLogger2は、弊社ロガーのスク립トを開発する目的において、自由に使用して頂いて結構です。

CMLogger2に関連して弊社は何の責務も負うことはありません。自己の責任においてご利用ください。

CMLogger2の再配布は原則として禁止します。再配布のご希望がある場合はご連絡ください。

CMLogger2が何らかの営利を生む場合は、弊社はその権利を放棄しません。そのような場合は、ご連絡ください。

株式会社データ・テクノ

京都市下京区西七条東御前田町48番地

〒600-8898 TEL:(075)313-3275 FAX:(075)314-0576

<http://www.datatecno.co.jp/>

・本取扱説明書の内容は、改良のため予告なく変更することがあります。